

愛知県震度観測・調査報告書－第37報－の概要

1 調査の概要と目的

この調査は、地震動の伝わり方や地域特性を明らかにするため、県内全市町村に設置している計測震度計による震度情報ネットワークの震度観測データ等を活用して、平成29年1月～12月に発生した地震と震度に関する情報をまとめるもので、防災対策の基礎資料、県民の地震に対する理解を深めるために活用されることを目的として報告書を作成している。昭和56年より1冊／年で発行しており、本書で37冊目となる。トピックスとして、「南海トラフで発生する巨大地震に関する新たな情報について」及び「名古屋大学御嶽山火山研究施設」についての解説を掲載した。

2 愛知県震度観測・調査報告書－第37報－の概要

(1) トピックス

ア 南海トラフで発生する巨大地震に関する新たな情報について

中央防災会議防災対策実行会議のもとに組織された南海トラフ沿いの地震観測・評価に基づく防災対応検討ワーキンググループの報告を受けた、気象庁の新たな情報に対してどのように対応すべきか述べている。

イ 名古屋大学御嶽山火山研究施設

2017年に開設された名古屋大学御嶽山火山研究施設と長野県の火山防災への取り組みについて述べている。

(2) 震度観測資料

ア 愛知県における地震

平成29年に、県内のいずれかの市町村で震度1以上が観測された地震の発生は28回であり、震度4以上が観測された地震の発生はなかった。

イ 国内の主要な地震

平成29年に、国内で、被害を伴った地震の発生は5回であった。

ウ 世界の地震

平成29年に、世界で人的被害を伴った地震の発生は17回であり、死者が100名を超える海外の地震の発生は2回あった。

3 調査研究成果の活用

調査報告書は、防災会議に報告するとともに、防災関係機関、市町村に配付し、地震防災対策の基礎資料として活用する。

また、県民が自由に閲覧できるように公立図書館、県民相談・情報センター等に配付し、地震についての理解を深めてもらう。